

## 「キリストとの出会い」

生田丘の上キリスト教会 牧師 <sup>たかみち</sup>野村天路



実は、生まれながらにイエス・キリストを信じている人はいません。今、イエス・キリストを信じているクリスチャンであっても、信じていなかったときがあり、そして、あるときイエス・キリストと出会い、深く知り、信じるようになったのです。

では、人はどのようにイエス・キリストを信じるようになるのでしょうか。パウロという人物を例として見てみましょう。

パウロは、イエス・キリストを宣べ伝える宣教師であり、キリスト教会の礎を築きました。多くの人々がパウロによってキリスト教信仰へと導かれ、各地に信者の群れである教会が生み出されました。ところが、パウロにもイエス・キリストを信じていない過去がありました。かつてのパウロは、キリストの弟子たちを捕らえ、投獄し、迫害していました。イエス・キリストに敵対し、教会を迫害することこそ、律法に従う正しい生き方だと考えていたのです。また神に選ばれたユダヤ人であるということや律法に従って生きているということ誇りとしていました。ところが、パウロの誇りは、イエス・キリストに出会うことによって砕かれ、変えられます。パウロは自分の変化について次のように語っています。「しかし私は、自分にとって得であったこのようなすべてのものを、キリストのゆえに損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。それは、

私がキリストを得て、キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。」(新約聖書ペリピ人への手紙3章7～9節)

イエス・キリストに出会い、イエス・キリストを知ったパウロは、180度変わりました。これまで誇りとしてきた律法を守ることやユダヤ人であるということがもはや「ちりあくた」と思えるようになりました。これまで誇りとしてきたことが色あせて見えるほどに、キリストがすべてとなったのです。イエス・キリストを知ったということが、パウロのすべてを変えたのです。

人がイエス・キリストを信じるようになるのは、イエス・キリストと出会い、知ることによります。現代の私たちは、聖書の言葉を通して、またすでにイエス・キリストを信じている人々を通してイエス・キリストを知ることができます。そして、イエス・キリストを深く知るようになると、イエス・キリストの素晴らしさに目が開かれていきます。そして、キリスト以外のことが色あせて見えるほどに、キリストを知っているということが最大の喜びとなり、誇りとなるのです。これがイエス・キリストを信じるということです。

ぜひ、教会にお越しください。聖書を通して、イエス・キリストと出会い、キリストを深く知り、そのことが最大の喜び、また誇りとなりますように。

## チャペルコンサート

11月2日(土) 14:00 開演  
開場: 13:30 入場無料

合唱と聖書朗読による

### ヨハネ受難曲

J.S.バッハ BWV245(日本語から

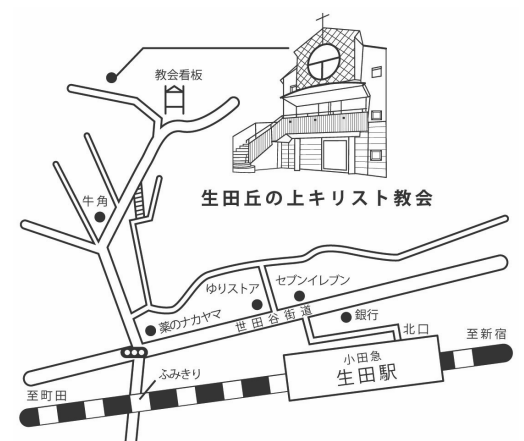
「ヨハネ受難曲」とは

新約聖書「ヨハネの福音書」の18～19章のイエスの受難を題材にした受難曲。多くの音楽家が作曲してきたが、最も有名なものはJ.S.バッハの作品。

演奏を聴くことで、イエス・キリストが十字架に架かるときの出来事をリアルに知ることができる。

原曲はドイツ語。今回の演奏は、すべて日本語訳で演奏。

演奏: エバンゲリウム カントライ  
会場: 生田丘の上キリスト教会





## 聖書と私

様々な出会いと思い

私は、年に一度しか投函されない「丘の上だより」っていったい何？ と思っていました。3年間静観し、それでも気になって教会を訪問し聖書にふれたことで、自分は神様に造られた存在であることに気付かされました。

『聖書』は、神様からの”お知らせ”の完全版であり、また“人間のトリセツ”です。日常ふと心に浮かぶ「なぜこんな不条理が？」「なぜこんな災難が？」といった疑問に対するすべての答えが記されている、希望に溢れた大ベストセラーなのです。

『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』旧約聖書エレミヤ書 33 章 3 節  
(隈元明子)



「魅力的な人物は共通して、確固たる信念のようなものをもっている」、学生時代に読書などを通してそんな風に思うようになった。自分も何か人生の拠り所となるものを見つけたいと願ったが、そういうものに出会うことはなかった。やがて周りと同じように就活、卒業して社会人に。新入社員の頃は、出世競争に負けたくない、そんなことだけ考えてひたすら仕事を頑張った。認められると嬉しいが、うまくいかないときは落ち込んだ。人の評価に振り回される、軸も土台もない生き方だったように思う。そんな私が、会社から留学した、言わば二回目の学生時代に、聖書に出会う。級友に誘われて教会に

行ったのがきっかけだった。そのときから聖書を人生の拠り所とする歩みが始まった。27 歳の大転換だった。もちろんよい方向への。これまでいろいろあったが、ずっと支えられてきた。

(宮尾亮一)



20 代の頃、異動した先の職場で A さんという先輩に出会いました。彼は日頃から自分がクリスチャンであることを公言していて、信仰を得たことでいかに自分が変わったか、という話をよくしていました。そしてイエス・キリストを知らないなんてもったいないよ、と言うのでした。その先輩とは年が近いこともあって、よく私的なことや仕事上のことも相談にのってもらいました。そんな時、彼はいつもイエス・キリストの教えに基づいてアドバイスしてくれました。その頃の私は、自信がなく不安な気持ちで毎日を送っていたので、彼のアドバイスに感謝しながら、一方で、彼の中には、「信仰」という芯があって、考えたり行動したりすることにブレがなく、うらやましいな、と感じていました。でも、自分と同じようにはイエス・キリストを信じられないな、とも思っていました。

数年後、私は職場で困難な状態に陥りました。自分では解決できないことを悟った時、彼が信じ熱く語っていたイエス・キリストに私もすがってみようと思い、生田丘の上教会の門をくぐりました。礼拝後牧師と話す中で、短い聖書の言葉が示され、その言葉が私の迷いを断ち切ってくれて、どうにか困難を乗り越えることができました。

それを機に教会に通い始め、半年後洗礼に導かれました。

信仰に入る前のことを思うと、イエス様の救いは誰の前にも、駅頭で配られるティッシュと同じように差し出されていたのだけど、最後にそれを自分の意志で受け取る、ということが必要だったのだなと感じています。

A 先輩とは今でも時々会っています。会って話す度に自分の信仰の未熟さを痛感させてくれる良き信仰の先輩です。彼が自分にしてくれたように、私も職場や地域において、日々の歩みを通して僅かでもイエス様の栄光を現すことができたかと願っています。

(石川弘明)



(7・8月を除く)

毎月第3土曜日 14:00~15:40

小学生を対象としたプログラムです。

わかりやすい聖書のお話と賛美歌。

毎回変わるメインプログラムには、工作、スタンプラリー、お菓子作り、ゲーム大会など、楽しいものばかりです。

保護者の方もご一緒に見学していただけますのでお気軽にご参加ください。



毎月第1・3火曜日

10:30~12:00

0才から未就園児と母親のための集いです。

聖書のお話と賛美歌、おやつなど。見学も大歓迎です。

## クリスマス イブ 礼拝 12月24日(火) 20:00~20:45

クリスマスの日のイブニング(晩)が「クリスマス イブ」聖書のことばに耳をかたむけ、まことの神を礼拝する夜どなたでもおいでください

昼間のクリスマスの集会は、12/22(日) 10:30~ クリスマス礼拝、子ども向けクリスマスの集会は 12/21(土)